

年を重ねているはずが

12月になりました。早いものでまた一年が終わろうとしています。日頃、忙しい日常を過ごしていると、時の流れについて無関心になりがちですが、この時期だけは過ぎた日々を振り返ったり、未来を予想したりすることでしょう。歴史の教科書に掲載されている年表ならば確実に1年延びたわけですし、木の年輪ならば1周増えたわけですが、日常生活の年表は縁がありません。

年表の長さ

教科書などで見る年表は縄文時代から始まるものが多く、縄文時代と弥生時代の表示の長さが同じであったり、記載項目が多いため、縄文時代より古墳時代のほうが長くなっている。さらに飛鳥時代が長かったりと実際の時間の長さとは異なるスケールで表記されるものもあり、分かりにくい印象を受けます。

日本の歴史を1年に置き換えると

そこで、資料館などで「時間軸」の説明をさせていただく際、日本の歴史の長さを1年の長さに置き換えてお話しします。現在、日本列島で人の痕跡が確認されているのは約4万年前の遺跡（長野県内の遺跡が3〜5万年前とされる）となりますが、仮にこの4万年前を1月1日とします。4万年前からおよそ1万2千年前を旧石器時代とすると、縄文時代が始まる日は8月10〜15日頃となります。旧石器時代をおよそ2万8千年間とすると、1年365日に換算すると250日分が旧石器時代となります。また、縄文時代は約1万2千年間続いたと考えられており、縄文時代が

終わり、弥生時代が始まるのが12月の初めてのころと考えられ、元日から330日後にやっとう米を作り出すわけです。

弥生時代が終わるのが12月25日頃、古墳（飛鳥）奈良・平安鎌倉時代が終わる西暦1333年も12月25日頃に換算されます。その後の室町・戦国時代約300年間の江戸時代が終わる、明治時代として近代が始まる約120年前が12月30日の夜更け頃となります。明治以降、大正昭和、平成30年までがおよそ1日（24時間程度）の換算となります。このように1年に換算するといかに旧石器時代と縄文時代までが長かったのがわかります。

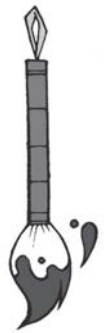
土器などの道具

旧石器時代の終わり頃（約1,200年前頃）の遺跡は市内でも複数か所で確認されています。この旧石器時代の遺跡からは土器は出土しません。縄文時代になって初めて土器がつかれます。ですから旧石器時代の人たちは、土器を使ってお湯を沸かし暖かい飲食物は食べられなかったと考えられています（焼いた石を木製の器などに入れて湯を沸かした可能性は考えられます）。

日本で土器を使い調理するようになってから約12,000年、青銅器の使用や米を作り出すのは約2,500年前の弥生時代ころから、鉄製品の使用と馬を飼うようになったのは約1,500年前の古墳時代から、本格的な殺傷機能のある武器はこの頃から発達します。

縄文人と弥生人

縄文時代は小さな集団で狩猟採集生活のた



下野市教育委員会 文化財課

め、収穫物は理にかなった分配方法が採用されました。よって集団間の大規模な戦争（富の争奪戦）は無かったようです。また、縄文人の墓の土を分析したところ花粉が多く検出されており、死者に花を手向けた可能性も指摘されています。よって、心優しい縄文人のイメージが指摘されています。

これに対して、九州の弥生人の墓（甕棺）などでは、頭骨の無い人骨や矢じりの刺さったまましばらく生き延びた人の人骨などが出土します。一つの共同体の建物群の周りには濠や土塁、逆茂木などを巡らし武装化しています。建物の中には米などの収穫物を収納したクラが複数あったようです。弥生時代になると米などの生産物（富）はその生産体制を仕切る権力者の下に集まり、共同体内の階層化が進みます。そうなるとう集団間で富の奪い合いが発生します。

人類の歴史と争い

古代ローマ、ギリシャ、エジプト、中国などに代表される文明でもすべて争いが発生します。本来、文明・文化の進化は、人間が生きていくための基礎的な知識・知性を形成しているはずなのですが、現代においても残念ながら世界中で争いは無くなりません。長い歴史の中で人間は言葉と文字を使い意思を伝えることができるようになりました。叶うならば新しい年は、深い議論と相互理解が進み、サイレンのならない安穏な日々が過ごせることを願います。